

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

新型コロナウイルス感染症は現時点においても収束の見込みが立たず、皆様の生活にも多大な影響を及ぼしている事と存じますが、皆様の安心安全の確保とともに、経済の早急な立て直しに向け、国県市町が連携して対策を講じるよう働きかけてまいります。

また、こうした状況の中、愛知県議会は先月25日に2月定例会が閉会となり、令和2年度予算が成立いたしました。歳入の太宗をなす県税のうちの法人二税は、コロナウイルスによる影響を加味しておりませんが、それでも企業収益の減速等により、対前年度で一割を超える大幅減収を見込んでいます。

その一方で、歳出は幼児教育・保育の無償化の影響が平年度化するほか、高齢化に伴う社会保障費の伸びなどにより、福祉関係経費は一貫して増加傾向にあり、ここ数年は単年度の歳入だけで歳出を賄うことができず、多額の基金取崩しに依存する厳しい財政状況が続いております。

更に冒頭に触れた通り、コロナウイルスに伴う経済低迷を勘案すると、リーマンショックや東日本大震災に匹敵する財政悪化も覚悟しなければならないかもしれません。

従って、コロナウイルス感染拡大防止を通じた不安の払拭、そして緊急経済対策は勿論のこと、2022年のジブリパーク開園や2026年のアジア競技大会、更には2027年のリニア中央新幹線開業など、2020年代はビッグプロジェクトが続いていきますが、これらの事業を着実に成功に導き、愛知の更なる飛躍に繋げて行かなければなりません。

予算説明に際し大村知事は、今年度を『愛知新起動』の年としたいと述べておられました。この苦境を乗り越え、誰もが魅力を実感できる愛知を目指し、今年度も頑張っております。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 